

二二三三五番

秋田刈るあきたか 旅の廬たび いほりに しぐれ降り 我わが袖そで濡ぬれ  
ぬ 乾ほす人ひとなしに

二二三三六番

玉たまだすき かけぬ時ときなき 我わが恋こひは しぐれし降ふ  
らば 濡ぬれつつも行いかむ

二二三三七番

もみち葉はを 散ちらすしぐれの 降ふるなへに 夜よさ  
へそ寒さむき ひとりし寝ぬれば

二二三三八番

天飛あまとぶや 雁かりの翼つばさの 覆おほひ羽はの いづく漏もりてか  
霜しもの降ふりけむ